

# 事業評価シート（平成27年度分）

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	バス利用促進事業		
事業担当	まちづくり政策部 交通政策課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'03	③〈利便性〉誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	
	'03	3 まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める	
根拠法令等	地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱		
対象・受益者	バス利用者	事業期間	
委託・協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 神奈川中央交通(株)】		
	目的・目標		事業の概要
路線バスが快適に利用できるようになり、市民のバス利用者が増加しています。		路線バスの利用を促進するため、バス停での待合環境やサイクル&バスライドの整備により、交通結節点の強化を図ります。	

## 2. 事業の検証

活動指標①	指標名	バス利用促進検討会議開催回数(平成26年度から)			単位	回
	説明・算定式					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績		3	3		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績					
成果指標①	指標名	バス停待合環境整備の進捗率(平成27年度から)			単位	%
	説明・算定式	検討50%、整備50%				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績			50		
成果指標②	指標名	サイクル&バスライド整備の進捗率(平成27年度から)			単位	%
	説明・算定式	検討50%、整備50%				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績			50		
進捗状況	①：予定どおり					
	遅れている理由					
平成27年度の主な取組と成果						
バス停の待合環境整備については、関係機関と協議を進めて要綱(案)を作成しました。また、サイクル&バスライドの整備については、バス事業者や地権者等と協議を重ね、28年度に1箇所開設するための準備が整いました。						
平成27年度の検証結果	A：成果があがった					

項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価	
事業分析	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	平成20年に行ったアンケート結果によれば、バス停の待合い環境(40%)や運行の定時制・速達性(42%)等の向上が望まれています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	バス停の待合い環境や運行の定時性・速達性の向上は、バスの利用を促進し、平塚市総合交通計画でめざす交通体系の構築につながる有効な事業です。また、この事業は直接的に市民サービスの向上に効果的です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	中心市街地への自家用車の流入を抑制し、環境にやさしいまちづくりを進めるためには、公共交通の利便性向上を図る必要があります、その目的や内容に妥当性があります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	バス事業者に対する国の補助の活用等、事業者、国、市それぞれの適正な役割分担と負担のもと効率よく進めていく事業です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
<b>今後に向けた課題の分析</b> バス利用促進には、運行の定時性・速達性の向上が望まれています。また、抜本的に課題を解決するためには長期的な対策の検討が必要であり、短期的な整備効果を期待できるバス停待合い環境の向上やサイクル&バスライドの整備により、さらなる利用促進を図りたいと考えます。				

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 決算額
事業内容		専用レーン化の社会実験の実施、バス走行環境整備事業の検討	バス走行環境整備事業計画の検討、公共交通優先信号等の検討	バス停待合い環境やサイクル&バスライドの整備に向けた検討
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0
執行率 (%)		—	—	—

## 4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

<b>平成29年度の取組方針</b> バス利用の促進を図るために、バス停の待合い環境やサイクル&バスライドの整備をバス事業者と連携して取り組みます。
<b>課長コメント</b> 総合交通計画の戦略プランに掲げるバス利用の促進は、優先的に進める必要がある重要な交通施策であるため、より効果的に事業を推進する必要があると考えます。